

第3章 わかやまの自然と生活



紀伊水道沿岸の漁村



リアス式海岸の漁村

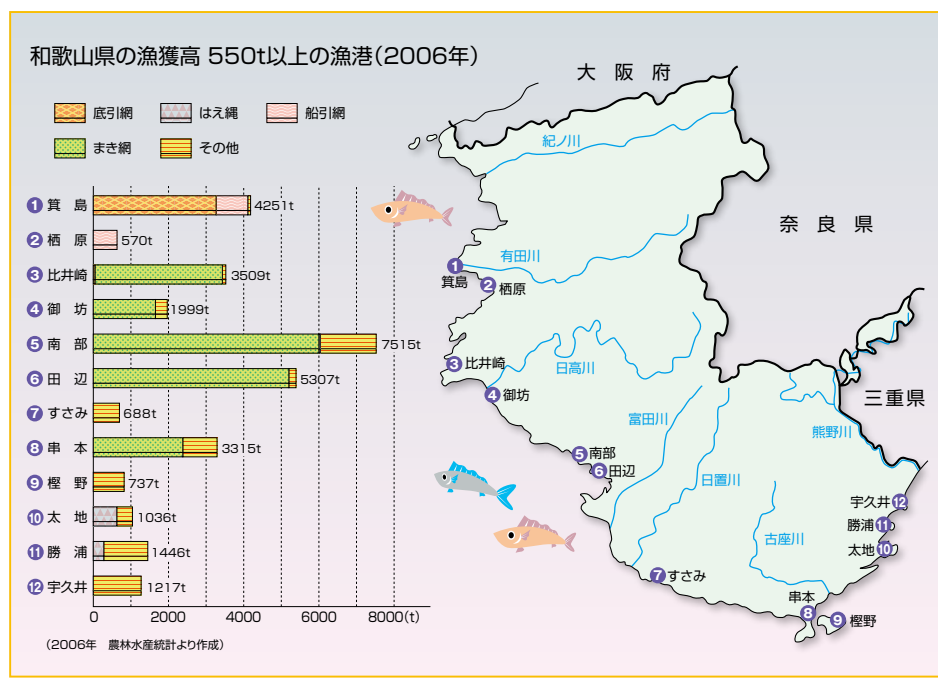
和歌山県は、山が海岸近くまでせまり、のこぎりの歯のように岬や入江が出入りするリアス式海岸になっています。そのため、入江は漁村にとっても天然の良港となり、県内には95の漁港があります。



雑賀崎の底引網漁船の出漁（和歌山市）

和歌山県の漁場は、紀伊水道の日ノ御崎を境に北の瀬戸内海区と、南の太平洋南区に分け

られています。紀伊水道沿岸の漁業は、おもに沿岸漁業と沖合漁業で、小型船で日帰りの漁業です。加太（和歌山市）は、友ヶ島を中心にタイの一本釣りが有名です。加太では1年中タイが取れますが、赤いマダイは、春に太平洋から瀬戸内海へ産卵のために回遊してくるので、そのころが一番よい漁期になります。一本釣りをするには、技術が必要なので高齢の人も多く仕事についています。雑賀崎（和歌山市）から湯浅や唐尾漁港（広川町）にかけては、紀伊水道での底引網漁業がさかんで、箕島（有田市）のタチウオの漁



獲量は全国1位です。現在120隻の小型底引網漁船があり、紀伊水道の沖合で操業しています。1隻の漁船に2人乗り、午前3時から午後2時ごろまでタチウオをとり、市場のせりに出し、おもに大阪方面に運んでいましたが、近年は韓国への出荷が増えてきています。1975（昭和50）年ごろから底引網漁船もそれまでの木造船にかわってプラスチック船になり、漁業の能

*1 2006（平成18）年（『和歌山の水産』2008年 和歌山県農林水産部水産局）。
 *2 魚のよく釣れる場所をえらび、船をとめて、生きたエビなどをつけた釣糸を海底におろしてタイを釣る。



箕島の底引網漁船（有田市）



紀伊水道での底引網漁船



タチウオの水揚げ

率もよくなりました。将来タチウオの漁獲量が減らないようにするため網の目を大きくして、稚魚はできるだけとらないようにしています。

また紀伊水道では、シラス（イワシの稚魚）をとる船引網漁業もさかんです。2隻の船で網を引き、袋網の部分が細長くなっています。その形が下着のバッチに似ているので、バッチ網ともいいます。以前はどの漁村でも地引網が*1あって、沖で入れた網をおおぜいの人たちが浜に引きよせて魚をとっていました。煙樹ヶ浜（美浜町）

では今も地引網でシラスをとっています。シラスは地元業者が釜あげ・ちりめん*2に加工しています。また、阿尾（日高町）などから出港するまき網漁船は、日ノ御崎から白浜町の市江崎にかけての漁場でイワシ・アジ・サバなどを夜間に漁獲しています。



タチウオ日本一の看板（有田市）

海岸はレジャーの場

海は漁業だけでなく、浜辺の海水浴や潮干狩り、そしてレジャーの釣りの場でもあります。紀伊水道沿岸は大阪にも近いので、多くの人たちがレジャーのために訪れます。現在、水上スキー・ウインドサーフィン・ヨット・ダイビングなど海のレジャーが盛んです。磯ノ浦（和歌山市）ではサーフィンを楽しむ人でにぎわっています。1994（平成6）年につくられた人工島のマリーナシ

ティ（和歌山市）は、地中海の港町をイメージしたテーマパークや、黒潮市場、ホテル、さらに多くのヨットをつなげるマリーナ施設*3などがあります。また和歌山市北港から由良にかけてはいくつかの釣り公園があり釣り人が多く集まります。1997年に行った調査では、太平洋南区における遊魚で釣った魚の量は和歌山県の割合が一番多かったほどです。

1996年7月20日の「海の日」が祝日となったのを記念して、全国の美しい海辺や浜を選んだ「日本の渚百選」に、白崎海岸（由良町）と白良浜（白浜町）が選ばれました。白崎は石灰岩の白い岬と青い海が特色で、「瀬戸内夢五十景」や「日本の夕陽百選」にも選ばれ、1997年白崎海岸は県立自然公園に指定されて、オートキャンプ場・ダイビングスクールなどができました。また日ノ御崎には、灯台を中心にカナダ資料館・バンガロー村などがあります。



和歌浦湾の海岸（和歌山市）

*1 バッチは和歌山県での方言。
*2 灯油で魚を集め、1〜2隻の網船で、魚群をかこみ、網をしぼって魚を逃げないようにして船に引き上げる漁法。
*3 レジャーで魚を釣ること。